

◆医療・生命◆ 活性酸素を除去する機能をもつハーブ・薬草成分

体内で活性酸素種（ROS）が過剰に発生すると様々な病気の原因になる。ある種の植物には ROS を減らす機能があり、有効成分を特定できれば、サプリメントや医薬品への応用が期待できる。本研究では、ヨルダン大学グループと共同で、尿路疾患や白斑の薬草として現地の民間療法で使われる西アジア原産植物から抽出した 5 種類の成分の ROS 消去機能を調べ、さらにローズマリーなどの 6 種類のハーブも分析した。この結果、これらの植物由来成分に ROS 除去機能が見出された。薬草やハーブを利用して体内 ROS を除去する新たなサプリメントや医薬品が開発できる可能性が示された。

【E2004*】

化学発光検出フローインジェクション分析法による西アジア原産植物の活性酸素種消去能評価

（長崎大院医歯薬総合・ヨルダン大学薬学部¹）○和田光弘、福永裕子、山形浩介、池田理恵、Suleiman M. Al-Khalil¹、中島憲一郎 [連絡者：中島憲一郎、電話：095-819-2450、E-mail：naka-ken@nagasaki-u.ac.jp]

西アジア原産植物である *Paronychia argentea* (PA) 及び *Gundelia tournefortii* (GT) はそれぞれ尿路疾患や白斑に効果があり、西アジアでは長年にわたり民間伝承薬として用いられている。これらの地域特有のいわゆる“薬草”にはこれまで知られていなかった体に有効な成分を含んでいる場合があり、それが新しい医薬品の種（シーズ）になる可能性を有している。

一方、活性酸素種（ROS）が体内で過剰に発生すると様々な疾患につながることから、これらを消去する植物には ROS 消去に有効な成分を含むことが期待される。今回取り上げた植物も近年、その既知の健康への効果により、新規の医薬品あるいはサプリメントとして注目を集めており、ヨルダン大学 Al-Khalil 教授らのグループはこれらの製剤化に取り組んでいる。しかしながらこれまでに本植物の ROS を消去する効果を検討した報告はない。

そこで今回、ヨルダン大学との共同研究として PA 及び GT の抽出物の有する 5 種類の ROS に対する消去能を評価すると共に、ローズマリーなど代表的な 6 種類のハーブについても評価を行い、その有用性の比較を行った。

その結果、これらの植物も ROS 消去能を有することが明らかとなった。

地域に特有の“薬草”から新しい種（シーズ）が見つかり

